

同行衆

南砺地方は善徳寺や瑞泉寺があり真宗の教えが生活の根底にあった。村落共同体の要である老人の精神的な拠り所も真宗に根付いていた。同行衆といわれる一部の人が別院の取り持ちや報恩講・神社の神事や祭りなど、村の宗教的な行事を通して人倫の方向性を指導する役割を担っていた。

老人会が発足しても同行衆は東西本願寺別院の御講仏様・宝物巡回を世話していた。戦後ではお東では石橋太三氏や品川政吉氏が、お西では宮本喜兵や宮塚市郎氏が思い出される。

長生会

歴史を遡れば、農村の村落共同体の老若男女すべての人達に役割が与えられていた。村内で役割があつてはじめて個の生活が充たされると認識されていた。多少の私有意識はあつたにせよ、村全体が秩序化されるていこと、みんなにとつて一番大切なことであり、不要な私権欲求を封鎖していたの

だ。そのような共同体第一の共認があつてはじめて、それを維持する上でのさまざまな課題と役割が登場する。効率を要求される力仕事は若者が老人の分まで担い、若者では判断できない組織統合の知恵を老人から授かつていた。役割分担があることでみんなが共同体社会の当事者であつた。

昭和三八年に社会福祉法が制定し、同時に老人福祉法が成り、各地区に高齢者の教養の向上と親睦を図る老人会が結成された。

金戸も国広・京塚の三地区での「長生会」が昭和三九年一月十五日に結成された。会員は金戸三六名、国広一六名、京塚四名であつた。現在に存命する者は一人もいないが二世代前の方々である。

金戸の老人会も国の基本的理念に準じつつも会目的は、「本会はお互いの長寿を喜んで人生の苦楽を語り、相慰め相励し進んで、郷土福祉に寄与するを以つて目的とする」第三条の目的達成の事業として、

一、宗教文化に関する行事
二、郷土の事績、功労者の美談逸話を語る会合

三、慰安会、社会見学

四、健康管理

五、その他本会にふさわしい事業

を掲げおり、村落共同体の役割である若者では判断できない組織統合の知恵を高めようとする意志がある。

行事として宗教講話の御座が報恩講・仏教講座・法話会と多く、また報恩講を会長宅で行っている年もある。

法話会の後に余興とあるがどのような余興をしていたのであろうか。

ラジオ体操への参加奨励や小学校・保育所見学や給食の試食等実施し子供との交流を図っている。

健康管理として年寄りの山秋先生や保健所長を招いての健康診断や健康講座を開催している。

レクリエーション・慰安会も三角山・八幡屋・酒池温泉・桜亭から大牧温泉・金沢ヘルスセンターへと遠方に向いている。

昭和四二・三年頃より町老人会・両砺波連合老人会・富山県老人会と組織化が促進され始めていく。また行事も町の寿大学の参加割当てが増え地区独自性が変化していく。

昭和四九年に城端町老人クラブ連合会規約が改正される頃には、目的が「この会は老人福祉法の理念に基づき、老人福祉の増進と応分寄与の精神を増長しクラブの組織的活動を推進することを目指す」とする。事業として①各単位クラブの連絡調整②老人福祉に関する

調査研究及び相談③その他この会の目的達成に必要な事業をするとし、往古からの村落共同体の要としての老人の役割分担が後退している。

しかし宮掃除・墓掃除・報恩講などを実施し、先人の労苦を忘れまいとする追悼会を欠かさず行っている。これらの事業は老人会の地区役割分担として平成の今日でも続いている。

会員数が多くなり女子の希望が高まったのか、昭和五〇年度に女子部についての討議あり、昭和五二年より男子部・女子部の事業が始まる。宮掃除・レクリエーション・報恩講など事業の多くは同じであるが、女子部には手芸教室・料理教室・家庭教室・尼講報恩講などが計画され実施されている。男子の第一長生会・女子の第二長生会の名称で事業計画や実施報告書が別々に作成されている。現在は役員に女性部長一名を選出し、三地区一名づつの役員を置いている。女子部だけの事業として一人暮らし宅訪問の友愛訪問が挙げられる。

平成の長生会

金戸・国広・京塚の三地区で発会した長生会も会員の増加は著しいものがある。昭和三九年の結成時は会員が金

戸三六名、国広一六名、京塚四名であったが、平成二十三年度では金戸が四四名、国広二六名、京塚二三名であり総会員は一八六名にも達している。

国広や京塚は少子高齢化で結成時の働き手が現役を退いて長生会に加入したもので世帯数は減数している。

一方金戸は新興住宅造成により世帯数は三倍近くも増加し、会員も三倍以上になっっている。

結成して四八年になり当時の会員は一人もなく三世代目に入っている。行事も月一回程度であり、農繁期の五月と九月は行事はなかった。

平成二十二年度の事業報告では地区内行事よりも市や県の連合老人会の行事が大半を占めるようになり、結成時の理念である「本会はお互いの長寿を喜んで人生の苦楽を語り、相慰め相励し進んで、郷土福祉に寄与するを以つて目的とする」ことが変質しつつあることが懸念される。

さりながら高齢者の地域に果たす役割が一段と多くなり、長生会の目標である「自らの生活を豊かにする楽しい活動」「地域を豊にする社会活動」として、健康づくり活動・友愛活動・奉仕活動・世代交流・仲間づくりに取り組んでいる。特に美化活動としての墓掃除・ふれあい広場の草むしりや子供

見守り活動は地域に寄与している。

ふれあいサロン

平成十四年に地域住民と民生委員・児童委員・ボランティア・社会福祉協議会が一体となって、ふれあいや交流を通して人間関係を回復維持したり、新しい関係を築くことを目的とした「ふれあいいきいきサロン」が始まった。主体を長生会(金戸・国広・京塚)の会員に呼び掛け、高齢者が閉じこもり気味となる生活を改善すべく、人と会って会話をし、出かけて行って仲間と楽しい時間を過ごすように定期的に外出する機会を習慣化する活動として、野外活動・手作り教室・料理教室・ストレッチ体操・健康教室等を金戸公民館や西部体育館で行っている。

